

# 5 生涯学習部門計画



一人一人が学ぶよるこびを実感できるまちを目指し  
ます（244ページ）

- |                                     |                                   |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 5-1教育基盤の充実<br>(248ページ)              | 5-1-1教育環境の充実<br>(250ページ)          |
|                                     | 5-1-2教育施設の整備<br>(252ページ)          |
| 5-2学校教育の充実<br>(254ページ)              | 5-2-1確かな学力を育む教育の推進 (256ページ)       |
|                                     | 5-2-2豊かな人間性や社会性の育成 (258ページ)       |
|                                     | 5-2-3健康・安全活動の支援 (260ページ)          |
| 5-3学校給食の充実<br>(262ページ)              | 5-3-1安全・安心な学校給食の提供と食育の推進 (264ページ) |
| 5-4地域力基盤醸成、文化芸術と社会教育の推進<br>(266ページ) | 5-4-1学べる・活かせる環境づくり (268ページ)       |
|                                     | 5-4-2文化芸術の振興 (270ページ)             |
|                                     | 5-4-3つながりによる地域力の向上 (272ページ)       |
| 5-5みんなが主役のスポーツまちづくり<br>(274ページ)     | 5-5-1スポーツ環境づくり (276ページ)           |
|                                     | 5-5-2競技スポーツの振興・推進 (278ページ)        |
|                                     | 5-5-3施設の利用促進 (280ページ)             |



学ぶ  
受け継ぐ

## 5 生涯学習部門計画

基本構想に掲げる、まちづくりの「視点」及び「めざすまちの姿」の該当項目

◎ 視点:「学ぶ」、「受け継ぐ」

◎ めざすまちの姿:「子どもから高齢者まで、夢を抱き、夢に向かって互いに学びあい、成果を活かせるまち」、「次世代に伝統と文化を受け継ぎ、ふるさとに愛着を持てるまち」

### (1) 計画のビジョン（目標）＝政策名称

#### 一人一人が学ぶよろこびを実感できるまちを目指します

【設定理由】すべての世代が学べる環境の整備・充実を図り、学んだことを活かして、人や地域のつながりが創出されるとともに伝統文化を継承し新たな文化が創造されていくことで、一人一人が学ぶよろこびを実感できるまちを目指します。

### (2) 計画のミッション（使命）

#### 市民一人一人が生涯を通じて学習できる機会の創出と環境を整備すること

【設定理由】学びによる個人の自己実現や生きがいづくりから、学んだことを活かし受け継いでいくことによる豊かな地域社会の形成につなげるため、自ら学び、活かすことができる学習機会や情報の提供と、学習環境の整備による支援をすること。

### (3) 計画のドメイン（事業領域）

#### 学びによる幸福感を育む環境の創出

【設定理由】子どもたちの確かな学習の基盤づくりと、生涯にわたりあらゆる世代が自ら学び、活かすことのできる学習機会や情報の提供を行うとともに、学習環境の整備を進めます。

## （4）政策目標

### ①暮らしやすさ指標

#### 子どもの教育について、学校、家庭、地域の連携があると感じている人の割合

【基準値】平成26年把握値 31.7%→【目標値】平成30年値 40.0%

【設定理由】地域全体（子ども・親・学校・地域・行政）が連携し、協力して教育活動を推進していくことは、みんなで学び、共に育っていくまちづくりにつながります。この指標が伸びていくことは、子どもたちの教育環境がより良いものとなるだけでなく、地域全体の力が強まり、豊かな地域社会の形成につながると考え、「子どもの教育について、学校、家庭、地域の連携があると感じている人の割合」を指標としました。

### ②《参考》関係する「幸福実感象徴指標」

#### 趣味や特技を披露できる機会が地域にある人の割合

【基準値】平成26年把握値 15.7%→【目標値】平成30年値 20.0%

【設定理由】学んだ成果を披露したり活かしたりすることは、個人の満足感から、地域での人材育成や新たな価値の発見・創出につながり、市民が主役の生涯学習社会の構築や、豊かな地域社会の形成、住民自治の深化へつながっていくと考え、「趣味や特技を披露できる機会が地域にある人の割合」を指標としました。

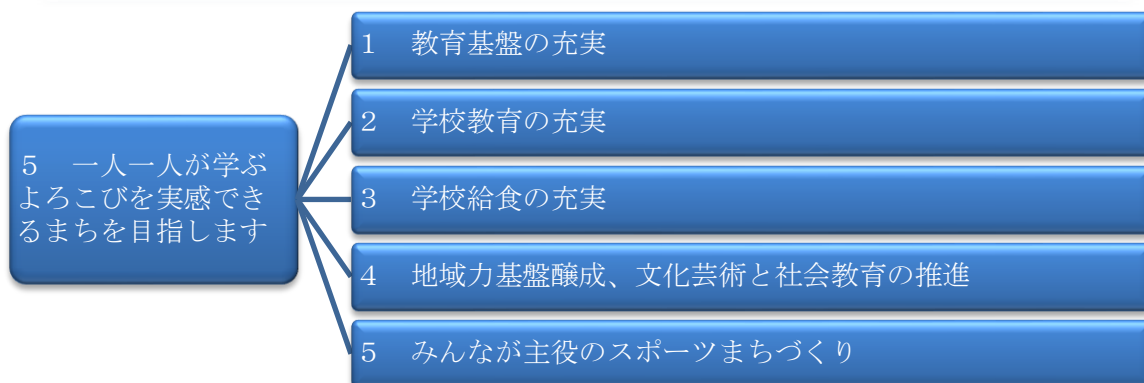
## （5）環境分析

### 【外部環境分析】

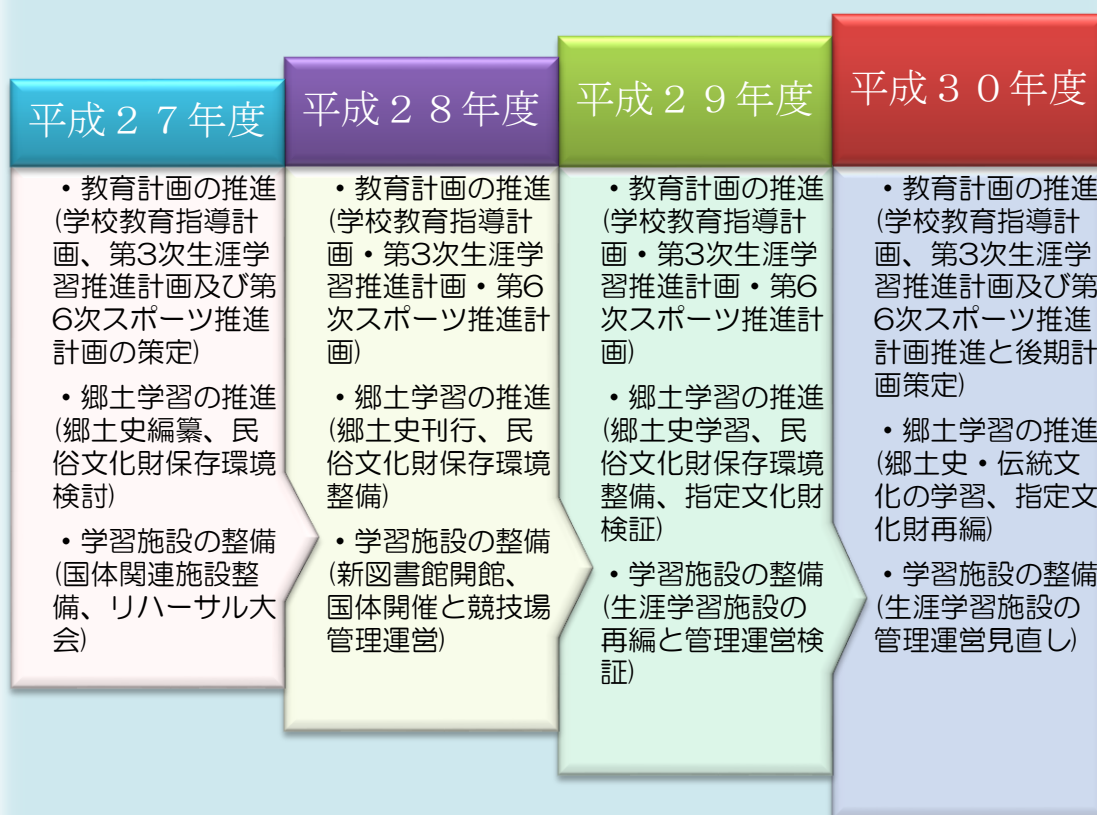
社会・生活の多様化、少子高齢化、個人志向の増進などに伴い、多くの年代の社会参加の機会創出や学習環境の急激な変化に対応していく必要があります。教育委員会制度の見直しについて、的確に運用する必要があります。

### 【内部環境分析】

新図書館、滝沢中央小学校、国体関連施設等について整備再編が進められることから、適切な運用管理と教育施策に有効な活用にも努める必要があります。市制移行を契機として、改めて郷土理解の醸成に努めるとともに、高等教育機関、青少年教育施設などの教育資源に恵まれている優位性を活かすことが求められます。



## (6) 政策展開スケジュール



## (7) 所管分野別計画

- ①【分野別計画名称】滝沢市スポーツ推進計画  
 【分野別計画の内容】学校、家庭、地域社会、各種教育・体育団体、教育委員会、市まちづくり・健康福祉担当部が一体となって推進するスポーツ推進に関する基本的・総合的な計画  
 【分野別計画代表事業】スポーツ環境の整備・充実、学校体育と生涯スポーツの連携・融合、競技スポーツの推進、健康づくり運動の推進
- ②【分野別計画名称】滝沢市生涯学習推進計画  
 【分野別計画の内容】市民一人一人の生涯学習を総合的に支援するため、滝沢市における生涯学習に関する考え方や目標と基本施策を示し、関係施策を総合的・体系的・計画的に推進する指針としての計画  
 【分野別計画代表事業】国・県・大学等の高等教育機関との連携促進、生涯学習関連施設の充実、生涯学習の普及奨励



## 5-1 教育基盤の充実

### （1）基本施策が4年間でめざす姿

子どもたちが生き生きと学習できる、居心地の良い、安全・安心な教育基盤の充実に努めます。

新しい教育委員会制度に的確に対応するとともに、少子化、児童生徒の偏在化を踏まえ中長期的な展望のもとに学校配置についての検討に着手します。就学機会を確保すべく経済的に困窮している世帯への支援を引き続き行うとともに、急速な情報化社会の進展に即応して学校ICT(情報通信技術)化の促進を図り、市内の大学との連携強化や地域の人材を活用するなど支援者等の確保に努めます。また、新設小学校の整備を進めるとともに既存施設の修繕、長寿命化を図るなど維持管理に努め、教育基盤のより一層の充実を目指します。

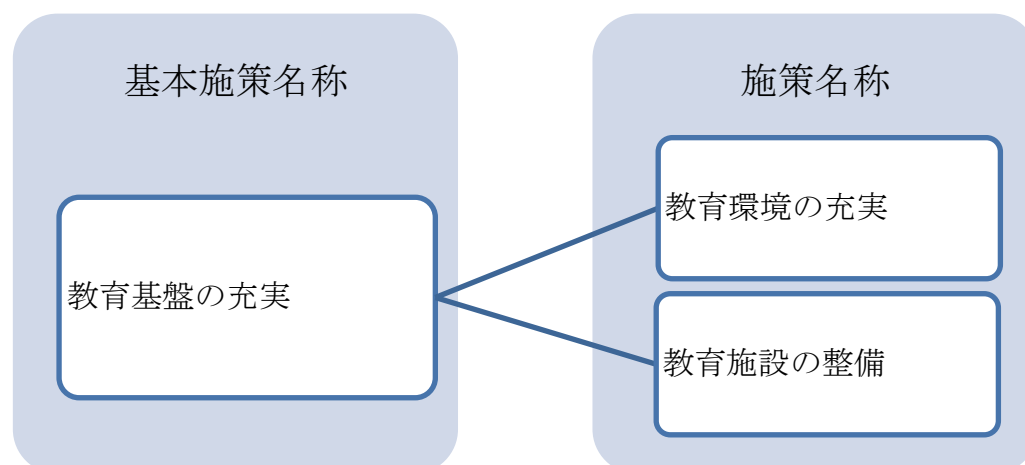
### （2）基本施策の環境分析

#### 【外部環境分析】

教育委員会制度改革(※1)により平成27年4月から改正法が施行され、的確な対応が求められます。また、少子化、児童生徒の偏在化が続いており、生活保護世帯等経済的に困窮している世帯も増加傾向にあります。また、市内にある大学との連携が進み人的支援及び学習機会の拡充が望める環境が醸成されつつあります。全国的には、急速な情報化社会の進展に即応して学校ICT(情報通信技術)化が進んでいます。

#### 【内部環境分析】

学校施設のランニングコスト(※2)の増加傾向と老朽化対策(長寿命化)が喫緊の課題となっています。



第三章 前期基本計画 市域全体計画（生涯学習部門計画）「5-1 教育基盤の充実」の基本施策及び基本施策を構成する施策にかかる用語解説

P248 ※1 教育委員会制度改革⇒教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化を図るとともに、地方に対する国の関与の見直しを図るため、平成27年4月1日に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が施行されるもの。教育委員長と教育長を一本化した「新教育長」の設置、市長が招集する「総合教育会議」の設置などの改革が行われる。

P248 ※2 ランニングコスト⇒設備や建物を維持するために必要な費用。



## 5-1-1 教育環境の充実

基本構想に掲げる、最適化条件の該当項目

- ・自ら学んだり、取り組める環境がある
- ・子ども達が生き生きとしている
- ・子ども達の体力・学力が向上する
- ・地域と学校との間で交流がある

### （1）施策の内容

新教育委員会制度の施行に伴い、教育行政における責任の明確化や市長との連携強化を図るとともに、少子化、児童生徒の偏在化を踏まえ、中長期的な展望のもとに望ましい学校配置についての検討に着手します。また、急速な情報化社会の進展に即応して、学校ICT(情報通信技術)化の促進に努めるほか、市内にある大学との連携を強化し大学生のマンパワーの活用等を図ります。さらに、就学機会を確保すべく経済的に困窮している世帯への支援を引き続き行ってまいります。

### （2）施策の目標

#### ①暮らしやすさ指標

**子どもの教育について、学校、家庭、地域の連携があると感じている人の割合**

【基準値】平成26年把握値 31.7%→【目標値】平成30年値 40.0%

【設定理由】学校教育においても家庭、地域との連携は重要であることから、「子どもの教育について、学校、家庭、地域の連携があると感じている人の割合」を指標としました。

#### ②《参考》関係する「幸福実感象徴指標」

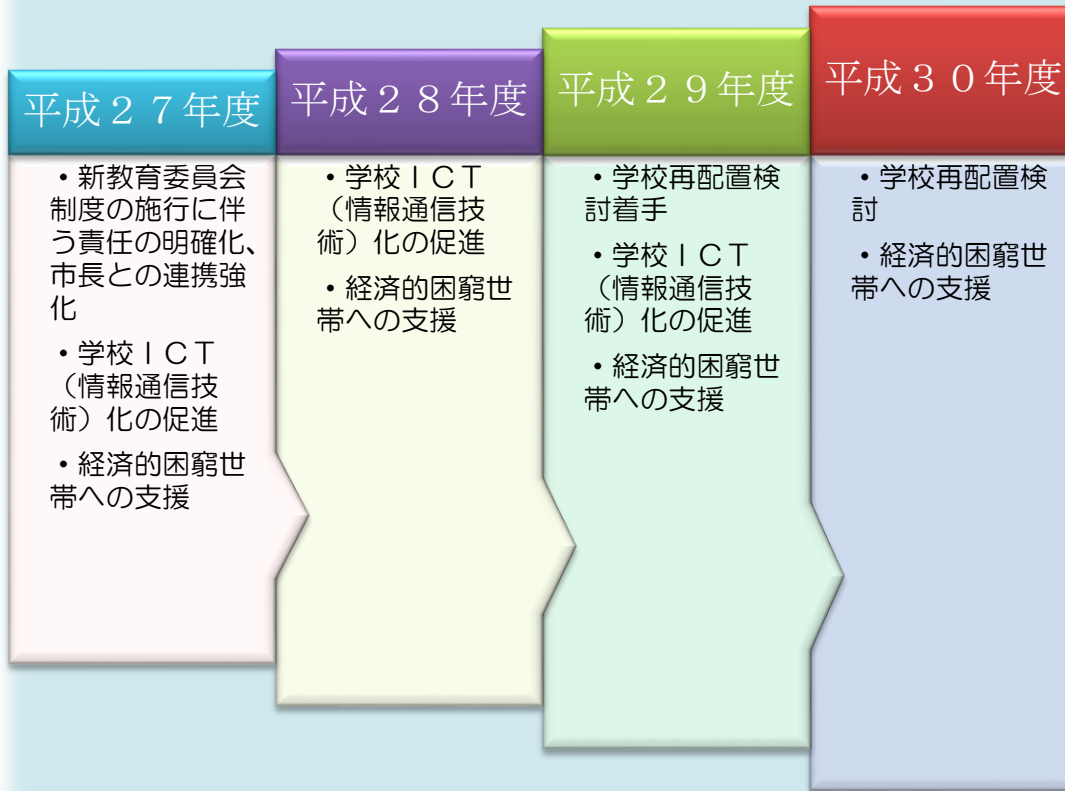
**子どもが夢中になって取り組めることがあると感じる人の割合**

【基準値】平成26年把握値 49.9%→【目標値】平成30年値 58.0%

【設定理由】学校での学習、児童会・生徒会活動やクラブ・部活動など、個性を發揮して活躍できる機会に恵まれていることが大切であることから、「子どもが夢中になって取り組めることがあると感じる人の割合」を指標としました。



(3) 施策展開スケジュール



(4) 所管実施計画

所管実施計画なし

## 5-1-2 教育施設の整備

基本構想に掲げる、最適化条件の該当項目

- ・自ら学んだり、取り組める環境がある
- ・子ども達が生き生きとしている

### （1）施策の内容

学校施設は学びの場であると同時に、災害時の避難所機能も併せ持つことから、耐震化対策等を進め安全・安心な教育施設の整備に努めるとともに、既存施設の適切な維持管理を行いながら、計画的に施設の長寿命化を図ります。また、滝沢中央小学校の整備を進めてまいります。

### （2）施策の目標

#### ①暮らしやすさ指標

##### 学校トイレの環境改善率

【基準値】平成26年把握値 47.7%→【目標値】平成30年値 75.0%

【設定理由】学校施設は児童生徒の学習・生活の場であり、そのうち学校トイレの環境改善は、保健衛生上、指導・管理上欠かせないものであるとともに、対策が望まれていることから「学校トイレの環境改善率」を指標としました。

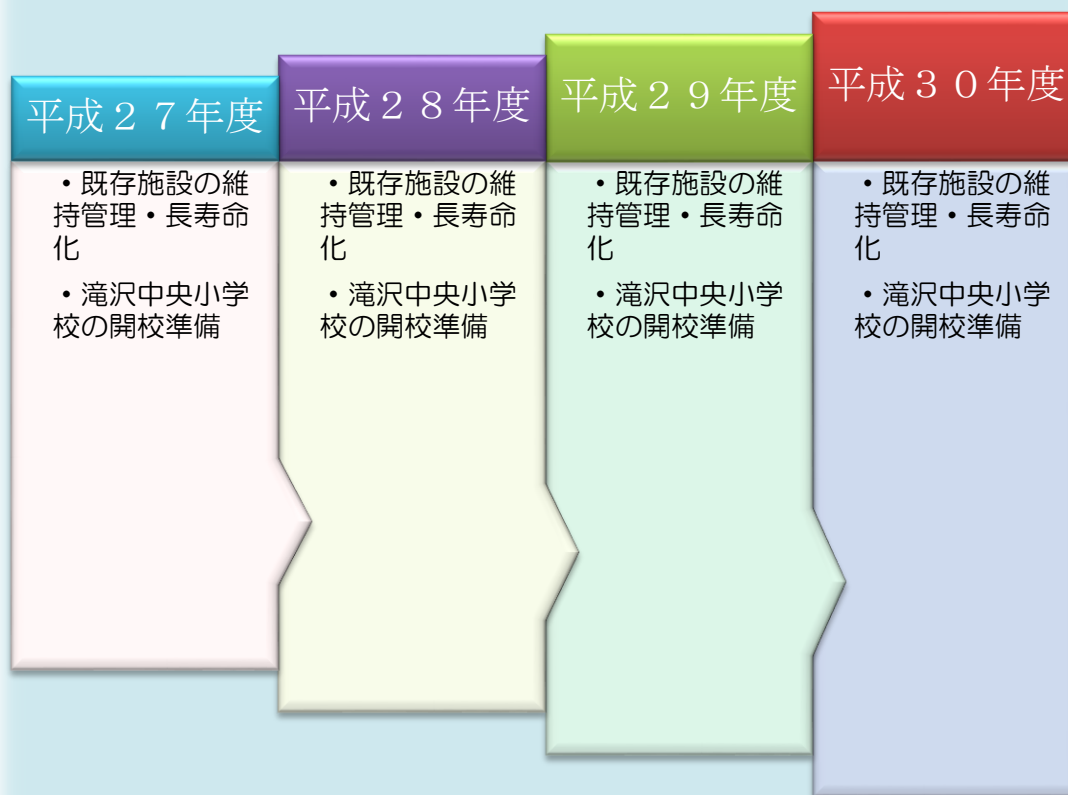
#### ②《参考》関係する「幸福実感象徴指標」

##### 仲の良い友だちの数

【基準値】平成26年把握値 6.06人→【目標値】平成30年値 8.00人

【設定理由】児童生徒は、一日の生活の大半を学校で過ごします。その中でお互いが切磋琢磨して心身を鍛え、集団生活のルールを学び、友だち関係を含めさまざまな人間関係等を構築します。学校施設の環境は、児童生徒の成長にとって影響を与える要素の一つと捉え「仲の良い友だちの数」を指標としました。

(3) 施策展開スケジュール



(4) 所管実施計画

所管実施計画なし

## 5-2 学校教育の充実

### (1) 基本施策が4年間でめざす姿

知・徳・体を総合的に兼ね備えた社会に適応する能力を育てる学校教育の充実のため、目指す学校像として『正義』と『信頼』の学校を掲げ、子どもたちが安心して生き生きと生活できる学校づくりを目指します。

また、「生きる力」を育てる学習指導要領の趣旨を踏まえ、滝沢市学校教育目標「明るく かしこく たくましい子ども」を育成するため、確かな学力を育む教育の推進、豊かな人間性や社会性の育成、健康・安全活動の支援の充実を図る中で、子どもたちが学べることの幸福感を味わえるような学校教育を目指します。

### (2) 基本施策の環境分析

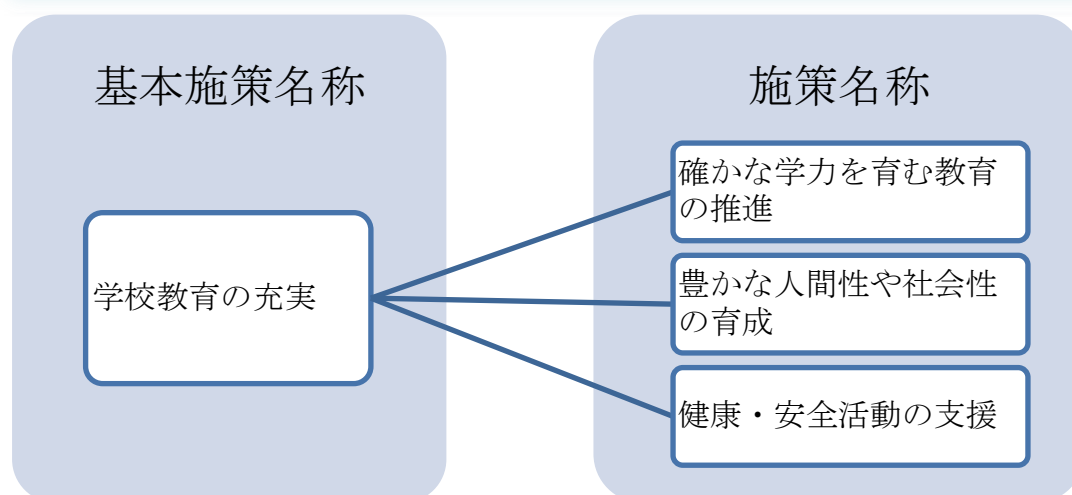
#### 【外部環境分析】

学力向上についての市民の関心・要望が一層高まっていくことが予測され、学力向上に向けた取組の充実が求められます。各種調査、検査等の活用、取組の検証・評価等の在り方について、各校の取組に対する適切な指導・支援が必要です。

#### 【内部環境分析】

平成26年度全国学力・学習状況調査(※1)による滝沢市の児童生徒の状況では、将来の夢や目標を持ち、人の役に立ちたいと願っている姿が見られる一方、自己肯定感が全国より低い傾向があります。

小中連携を通して家庭学習の定着を図る必要から、今後は、予習を含め家庭学習の内容の充実が課題です。



第三章 前期基本計画 市域全体計画（生涯学習部門計画）「5-2 学校教育の充実」の基本施策及び基本施策を構成する施策にかかる用語解説

P254 ※1 全国学力・学習状況調査⇒文部科学省が、全国的に児童生徒の学力状況を把握するために平成19年度から実施している調査。原則として国・公・私立学校の小学校6学年、中学校3学年の全児童生徒を対象に実施。

P256 ※2 学力テスト（NRT）⇒標準学力検査教研式NRT（Norm Referenced Test）。学習指導要領に準拠した内容となっており、小学校1年生から中学校3年生を対象に全国的に実施されている検査。

P257 ※3 ALT⇒外国語指導助手（Assistant Language Teacher）。

P261 ※4 スクールガード⇒児童生徒の登下校時などに安全確保のため見守り活動を行う学校安全ボランティア。



## 5-2-1 確かな学力を育む教育の推進

基本構想に掲げる、最適化条件の該当項目

- ・自ら学んだり、取り組める環境がある
- ・子ども達が生き生きとしている
- ・子ども達の体力・学力が向上する

### （1）施策の内容

岩手の義務教育の目的は「【知・徳・体】を総合的に兼ね備えた社会に適応する能力を育てる「人間形成」です。また、滝沢市の学校教育目標は「明るく かしこく たくましい子ども」であることから、「知＝かしこく」にあたる「確かな学力」と「体＝たくましい子ども」にあたる「体力」の実態を、数値でとらえられる諸テスト等から把握し、その向上を図ってまいります。

### （2）施策の目標

#### ①暮らしやすさ指標

##### 学力テスト（NRT）で全国標準を上回った学校の割合

【基準値】平成26年把握値 68.8%（小学校）→【目標値】平成30年値 81.3%（小学校）  
50.0%（中学校） 66.7%（中学校）

【設定理由】「生きる力」の育成のため、健やかな身体、確かな学力の育成は、豊かな心とともに大切な要素と考えます。特に、「確かな学力」は、関心・意欲・態度、判断力、問題発見能力、問題解決能力等を含めた総合的な学力であり、学力テストがそれらのすべての力を網羅するものではありませんが、その結果も学力の重要な一部でもあることから、施策の実現状況を明らかにするため、「学力テスト（NRT）（※2）で全国標準を上回った学校の割合」を指標としました。

#### ②《参考》関係する「幸福実感象徴指標」

##### 子どもが夢中になって取り組めることがあると感じる人の割合

【基準値】平成26年把握値 49.9%→【目標値】平成30年値 58.0%

【設定理由】学校での学習、児童会・生徒会活動やクラブ・部活動など、子どもたちが個性を発揮し、活躍できる機会に恵まれていることが大切であることから、「子どもが夢中になって取り組めることがあると感じる人の割合」を指標としました。

### （3）施策展開スケジュール



### （4）所管実施計画

所管実施計画なし

## 5-2-2 豊かな人間性や社会性の育成

基本構想に掲げる、最適化条件の該当項目

- ・自ら学んだり、取り組める環境がある
- ・子ども達が生き生きとしている
- ・自分の夢の実現のために取り組むことができる
- ・地域と学校との間で交流がある

### (1) 施策の内容

自他の生命の尊重、思いやりの心、郷土・滝沢の自然、伝統文化、食文化等を学ぶことで培われる郷土愛などの児童生徒の「豊かな人間性や社会性の育成」は、道徳の時間を始め、各教科、総合的な学習の時間、復興教育など、あらゆる教育活動において育むことが大切です。

また、児童生徒が協調性、意思疎通能力等の社会性を身に付け、生き生きと生活するためには、学校生活における友人関係や学業不振等で学校不適応・不登校に陥らないよう学校、家庭、関係機関が連携を図り、日々の学校生活が楽しく、充実したものとなるよう手立てを講じてまいります。

### (2) 施策の目標

#### ①暮らしやすさ指標

##### 1年間無欠席の児童生徒の割合

【基準値】平成26年把握値 41.8%→【目標値】平成30年値 43.0%

【設定理由】児童生徒が心身共に健康で、学校を欠席することなく、学校生活の中で学習やクラブ・部活動等に希望や目標をもち、毎日生き生きと生活できることは大切であることから「1年間無欠席の児童生徒の割合」を指標としました。

#### ②《参考》関係する「幸福実感象徴指標」

##### 仲の良い友だちの数

【基準値】平成26年把握値 6.06人→【目標値】平成30年値 8.00人

【設定理由】児童生徒が、自分を高めてくれたり、自分を支えてくれたりする友だちの存在は学校生活が生き生きとしたものとなるためには必要なことから、「仲の良い友だちの数」を指標としました。



(3) 施策展開スケジュール



(4) 所管実施計画

所管実施計画なし

## 5-2-3 健康・安全活動の支援

基本構想に掲げる、最適化条件の該当項目

- ・子ども達が生き生きとしている
- ・子ども達の体力・学力が向上する

### (1) 施策の内容

子ども達が生き生きと学校生活を送るためには、体位・体力の発達促進が図られ、心身ともに健康であることがまず大切です。

日々の学校生活において、安全・安心に生活するために、児童生徒が安全に登下校できる取組、学校内においても学校環境衛生の維持管理等の取組を進めてまいります。

### (2) 施策の目標

#### ①暮らしやすさ指標

##### 子ども達が不安なく暮らせると感じている人の割合

【基準値】平成26年把握値 24.3%→【目標値】平成30年値 40.0%

【設定理由】登下校も含め、安全・安心な学校生活が保障され、子ども達が不安なく、生き生きと生活できることが大切であることから「子ども達が不安なく暮らせると感じている人の割合」を指標としました。

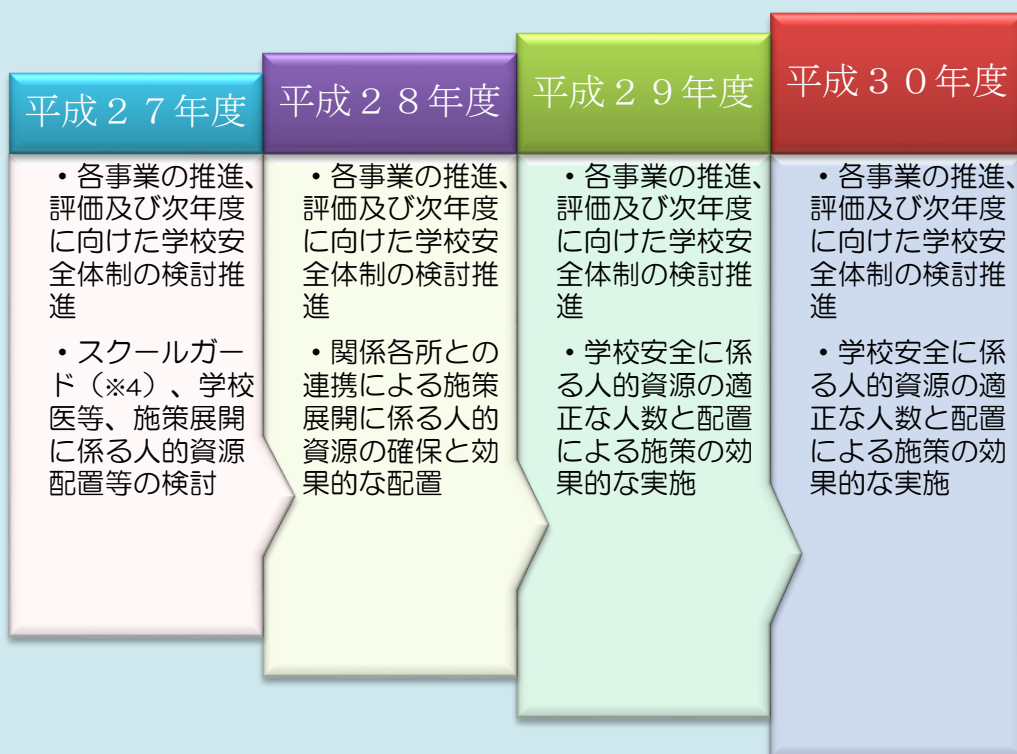
#### ②《参考》関係する「幸福実感象徴指標」

##### 子どもが悩みを相談できる相手がいると感じる人の割合

【基準値】平成26年把握値 52.6%→【目標値】平成30年値 62.0%

【設定理由】児童生徒が、心を許して悩みを相談でき、自分を支えてくれる友達の存在は、困難を乗り越え、日々成長していくために大切な存在であり、滝沢市の学校教育目標の「たくましい子どもの育成」にかかわる大切な視点と考えます。さらに、学校不適応・不登校の防止にもつながることから、「子どもが悩みを相談できる相手がいると感じる人の割合」を指標としました。

(3) 施策展開スケジュール



(4) 所管実施計画

所管実施計画なし

## 5-3 学校給食の充実

### （1）基本施策が4年間でめざす姿

児童・生徒が心身ともに健全に発達するため、引き続き安全・安心で栄養バランスのとれた学校給食を提供するとともに食の指導の充実を図り、望ましい食習慣の理解と実践の支援など、食育の推進を目指します。

### （2）基本施策の環境分析

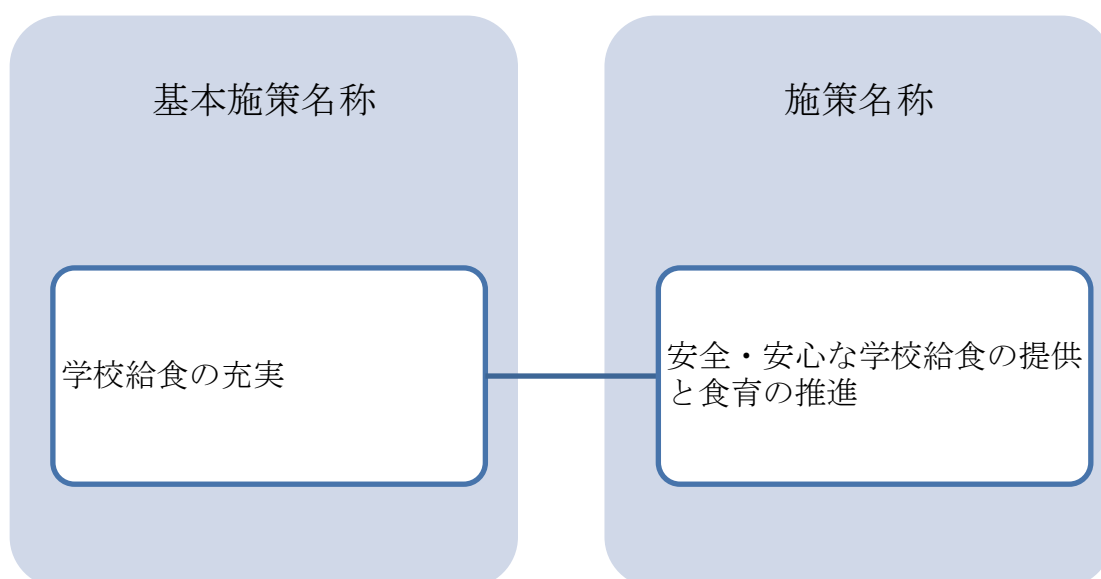
#### 【外部環境分析】

近年、核家族化や就労形態の多様化により、偏食や朝食欠食など家庭での子どもたちの食のバランスが崩れてきています。

また、第一次産業の減少や食品への不安により、食の安全性が求められています。

#### 【内部環境分析】

市内全小中学校に学校給食を提供している給食センターには、栄養や食に関する専門的知識を有する栄養士がいるとともに、市内の農家等で組織された滝沢市学校給食食材生産供給組合（※1）から、安全で新鮮な地場産品が給食食材として供給されています。



第Ⅲ章 前期基本計画 市域全体計画（生涯学習部門計画）「5・3 学校給食の充実」の基本施策及び基本施策を構成する施策にかかる用語解説

P262 ※1 滝沢市学校給食食材生産供給組合⇒小中学生の健やかな育成に寄与することを目的に、市内で生産された安全で豊かな農産物を学校給食の食材に供給するため、平成22年に市内の農家等で組織された組合。



## 5-3-1 安全・安心な学校給食の提供と食育の推進

基本構想に掲げる、最適化条件の該当項目

- ・子ども達が生き生きとしている
- ・地域と学校との間で交流がある

### （1）施策の内容

学校給食に安全で新鮮な地場産品等を活用することや給食センターの施設設備等の計画的な改修整備を行うことにより、児童・生徒に安全・安心な学校給食を提供します。

また、児童・生徒が将来にわたって健康に生活していくため、望ましい食習慣を理解し実践できるよう、学校と連携し食の指導の充実に努めます。

### （2）施策の目標

#### ①暮らしやすさ指標

##### 学校給食食材生産供給組合からの年間納入量

【基準値】平成26年把握値 9,538kg→【目標値】平成30年値 9,900kg

【設定理由】安全で新鮮な給食食材である市内農家からの地場産品の納入数量を表す「学校給食食材生産供給組合からの年間納入量」を指標としました。

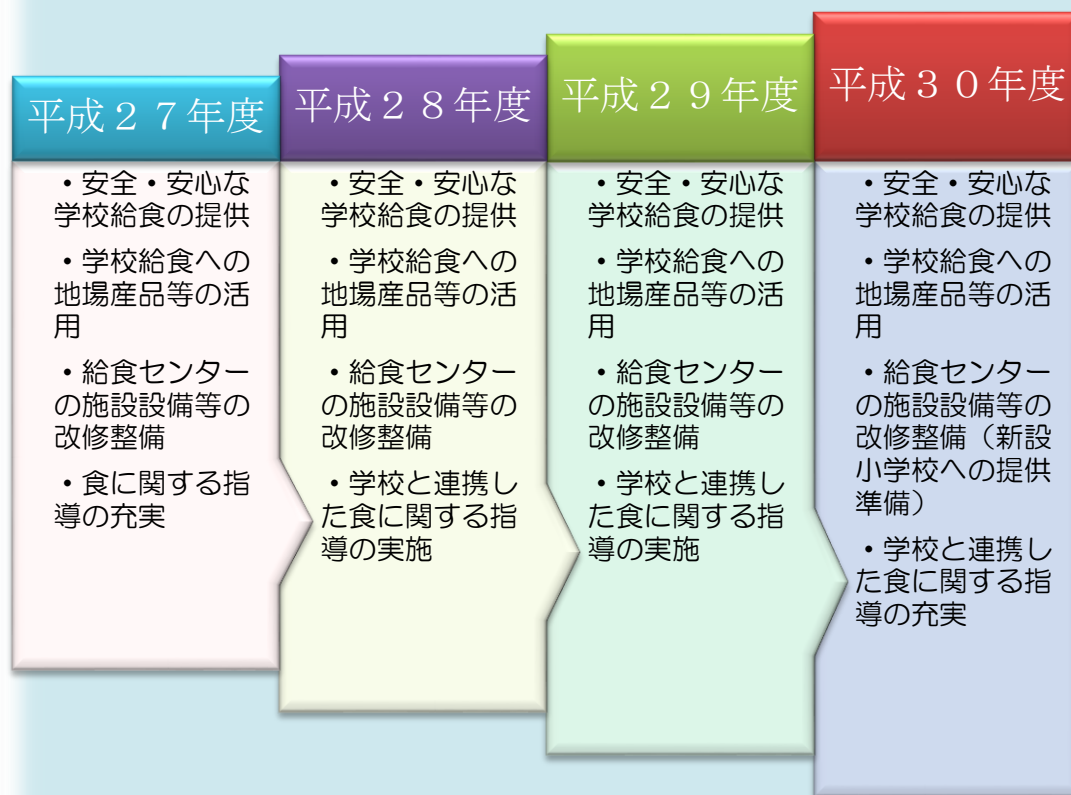
#### ②《参考》関係する「幸福実感象徴指標」

##### 家族一緒に食事をする回数（1週間）

【基準値】平成26年把握値 10.12回→【目標値】平成30年値 12.00回

【設定理由】将来にわたって健康で幸福に生活していくためには、家族で良好な食習慣を実践していくことが重要であると考え、「家族一緒に食事をする回数（1週間）」を指標としました。

(3) 施策展開スケジュール



(4) 所管実施計画

所管実施計画なし

## 5-4 地域力基盤醸成、文化芸術と社会教育の推進

### （1）基本施策が4年間でめざす姿

学校、保護者、地域、教育行政が連携して子どもの「生きる力」を育む、また誰もが学べる環境をつくるため、新図書館設置等の学習環境の整備充実を行い、学んだ成果を活かす環境づくりを進め、地域力の醸成を目指します。

また、地域が連携し、高齢者や子ども達が生き生きとして、自ら学び郷土理解を深め地域活動を活かす状態を目指します。

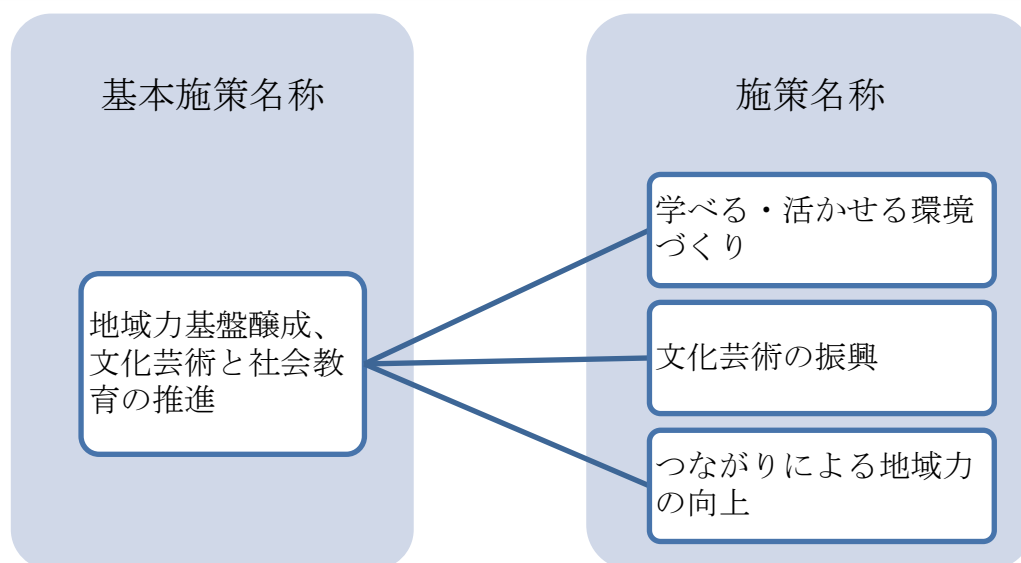
### （2）基本施策の環境分析

#### 【外部環境分析】

少子高齢化が急速に進展しており、青少年の健全育成や活力を維持した地域づくりのため、地域人材の積極的な養成・活用など地域力の向上を図る必要があります。またICT（情報通信技術）環境の浸透からその活用や、滝沢市の強みでもある大学との連携を進め、より多様な学習機会の創出をしていく必要があります。

#### 【内部環境分析】

社会教育施設を始め各学習施設の稼働率は高く有効に活用されているが、経年劣化が進んでおり計画的な修繕を行い、施設の長寿命化を図る必要があります。また近隣自治体も含め、広域的な観点からの施設利用をしていくことも必要です。





第Ⅲ章 前期基本計画 市域全体計画（生涯学習部門計画）「5-4 地域力基盤醸成、文化芸術と社会教育の推進」の基本施策及び基本施策を構成する施策にかかる用語解説

P269 ※1 **新設図書館**⇒平成28年度に開館が予定されている（仮称）複合交流拠点施設内の図書館。

P272 ※2 **地域資産**⇒地域に根差し育まれた、人・組織・風土などの地域づくりに有用な「地域資源」に地域が生み出した有意な活動、地場産品、観光などを加えたものを「地域資産」と定義。



## 5-4-1 学べる・活かせる環境づくり

基本構想に掲げる、最適化条件の該当項目

- ・自ら学んだり、取り組める環境がある
- ・自分の夢の実現のために取り組むことができる
- ・同じ目的を持った人との交流がある

### （1）施策の内容

住民協働による地域づくりから市民主体による地域づくりに向け、「市民が主役の生涯学習社会」の構築を目指し、次代を担う人材の育成や学んだことを活かす場の創出等住民や地域のニーズに適応した新たな生涯学習の提供を行ってまいります。

### （2）施策の目標

#### ①暮らしやすさ指標

**趣味の教室や講座に参加するなど、自ら学ぶ機会を持っている人の割合**

【基準値】平成26年把握値 27.6%→【目標値】平成30年値 29.0%

【設定理由】未来と地域を担う人づくりのため、市民がいつでも、どこでも、だれでも学べる機会を創出し、世代や性別に関わらず学習・体験・交流の機会に参加できる環境づくりが必要となるため「趣味の教室や講座に参加するなど、自ら学ぶ機会を持っている人の割合」を指標としました。

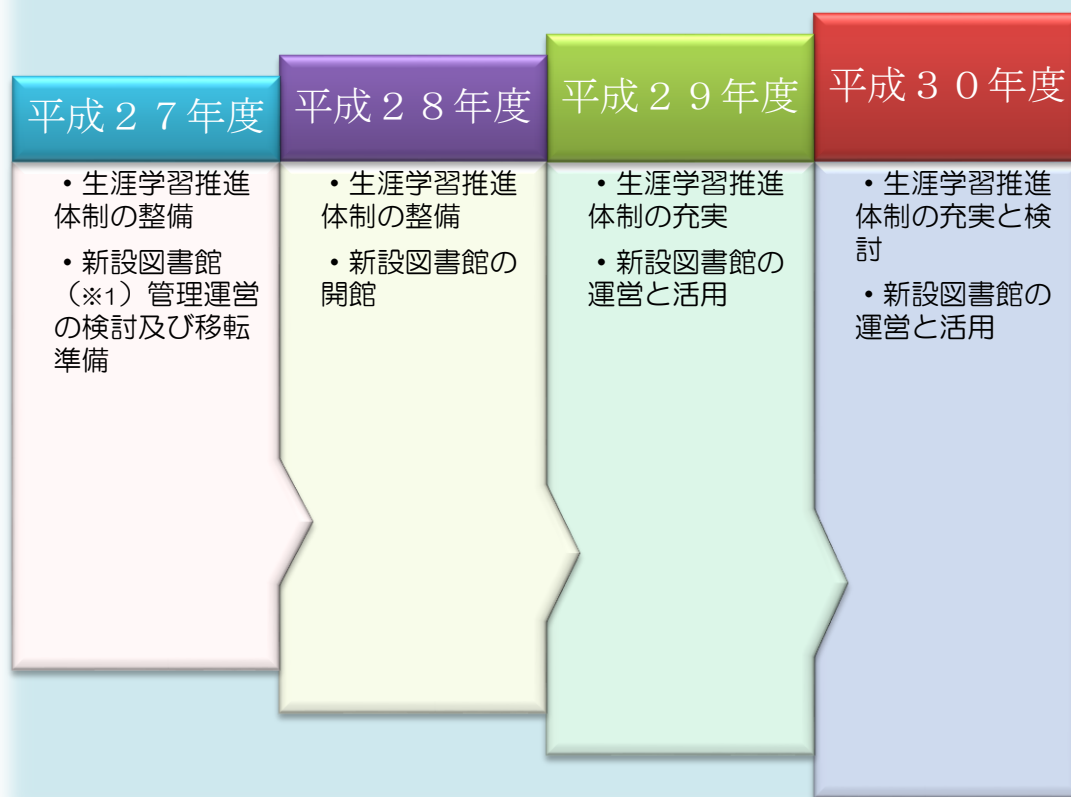
#### ②《参考》関係する「幸福実感象徴指標」

**身に付けた知識や技術を仕事や趣味の場で活かせる機会があると感じる人の割合**

【基準値】平成26年把握値 39.5%→【目標値】平成30年値 45.0%

【設定理由】学習成果が社会に活かされることにより、住みよい地域づくりの大きな力となることから、学習成果を共に活かすことができるように、学習で得た知識や技術などを積極的に地域で活用できる仕組みづくりを構築する必要があるため「身に付けた知識や技術を仕事や趣味の場で活かせる機会があると感じる人の割合」を指標としました。

(3) 施策展開スケジュール



(4) 所管実施計画

所管実施計画なし

## 5-4-2 文化芸術の振興

基本構想に掲げる、最適化条件の該当項目

- ・文化、伝統が受け継がれている
- ・文化、伝統や芸術に親しむ機会がある

### （1）施策の内容

住民の多様な文化活動を支援するため、芸術文化団体の基盤強化や活動支援に努めます。また、文化財については保護や活用に努めるとともに、文化財の掘り起こし事業に取り組んでまいります。

### （2）施策の目標

#### ①暮らしやすさ指標

##### 滝沢市芸術祭・郷土芸能まつりの入場者数

【基準値】平成26年把握値 1,300人→【目標値】平成30年値 1,400人

【設定理由】芸術文化団体の活動の発表の場が、芸術祭と郷土芸能まつりであることから、「滝沢市芸術祭・郷土芸能まつりの入場者数」を指標としました。

#### ②《参考》関係する「幸福実感象徴指標」

##### 趣味や特技を披露できる機会が地域にある人の割合

【基準値】平成26年把握値 15.7%→【目標値】平成30年値 20.0%

【設定理由】住民の多様な文化活動は、趣味や特技などが行える機会があることが必要なことから「趣味や特技を披露できる機会が地域にある人の割合」を指標としました。

(3) 施策展開スケジュール



(4) 所管実施計画

所管実施計画なし

### 5-4-3 つながりによる地域力の向上

基本構想に掲げる、最適化条件の該当項目

- ・みんなで地域の夢の実現のために取り組むことができる
- ・同じ目的を持った人との交流がある
- ・人々が集まり活動できる場所がある

#### （1）施策の内容

地域の力により、地域課題・社会課題を自らの手で解決策を見つけ出す「人・組織・情報発信」の力を育成し、住民自治につながる地域力の基盤醸成を図ります。

また、地域資産(※2)を利用した地域の活性化を図るため、必要な調査を行い、地域との対話を行ってまいります。

#### （2）施策の目標

##### ①暮らしやすさ指標

**滝沢市はみんなが支えあうことで地域の課題を解決できる市だと思っている人の割合**

【基準値】平成26年把握値 41.7%→【目標値】平成30年値 50.0%

【設定理由】地域力の向上を図ることにより、様々な課題を地域の中で解決する「人・組織・情報発信」の力による支えあう仕組みが形成されることとなるため「滝沢市はみんなが支えあうことで地域の課題を解決できる市だと思っている人の割合」を指標としました。

##### ②《参考》関係する「幸福実感象徴指標」

**ここ一年で地域活動に参加した人の割合**

【基準値】平成26年把握値 48.3%→【目標値】平成30年値 52.0%

【設定理由】地域力の向上により、様々な課題解決を行うため、必然に地域活動への参加が図られ、また、地域活動への参加により、地域資産の育成を行うこととなるため「ここ一年で地域活動に参加した人の割合」を指標としました。

(3) 施策展開スケジュール



(4) 所管実施計画

所管実施計画なし

## 5-5 みんなが主役のスポーツまちづくり

### (1) 基本施策が4年間でめざす姿

健康志向や国体の開催を推進していく中で、市民の運動・スポーツへの関心が高まってきており、市民がスポーツに親しみやすい環境づくりや健康づくりのための運動を推進していく必要があります。

スポーツを通しての自己実現や健康増進を目的として、幼児から高齢者までのあらゆる世代、初心者から競技スポーツ選手のすべての市民がスポーツに親しむ社会を目指します。

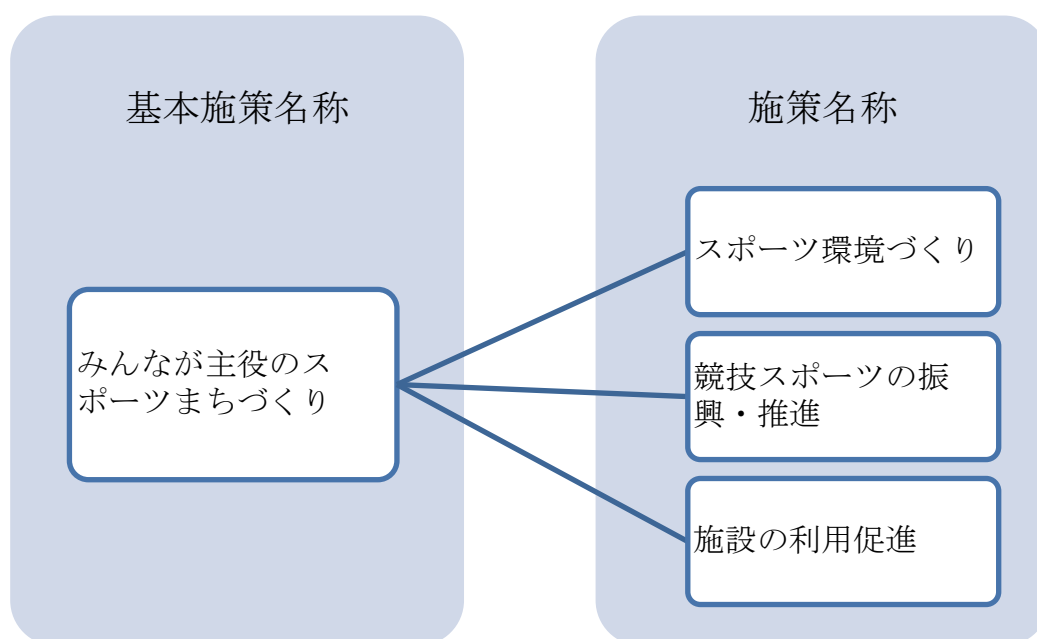
### (2) 基本施策の環境分析

#### 【外部環境分析】

社会経済構造の変化や少子高齢化、情報化、国際化などによる多様な環境変化は、体を動かす機会の減少やストレスの増大など、心身の健康に大きな影響を及ぼしています。一方健康志向が高まり、運動・スポーツは人間にとって大切であることが広く認識されています。

#### 【内部環境分析】

国体などの事務事業が増加し、運動に対する市民ニーズは多様化、複雑化してきています。また体育施設のファシリティマネジメント(※1)などの専門職のマンパワーが必要です。





第Ⅲ章 前期基本計画 市域全体計画（生涯学習部門計画）「5-5 みんなが主役のスポーツまちづくり」の基本施策及び基本施策を構成する施策にかかる用語解説

P274 ※1 ファシリティマネジメント⇒公共施設用不動産（土地、建物、構築物、設備等）すべてを経営にとって最適な状態で保有し、運営し、維持するための総合的な管理手法。

P276 ※2 スポーツフェスティバル⇒子供から高齢者までのあらゆる世代が様々スポーツを楽しむ催し物。

P279 ※3 国体⇒第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」。



## 5-5-1 スポーツ環境づくり

基本構想に掲げる、最適化条件の該当項目

- ・スポーツに親しむ機会がある
- ・同じ目的を持った人との交流がある
- ・人々が集まり活動できる場所がある

### (1) 施策の内容

多くの市民が生涯にわたり運動・スポーツを親しむことができるスポーツライフの実現のため、スポーツ関係団体等と連携した情報提供の整備充実、スポーツを推進するリーダーの育成、スポーツ施設の充実など、運動・スポーツに親しむ環境づくりを行ってまいります。また国体開催を契機とした運動・スポーツの推進を行ってまいります。

### (2) 施策の目標

#### ①暮らしやすさ指標

##### 市民体育祭・スポーツフェスティバルの参加者数

【基準値】平成26年把握値 3,100人→【目標値】平成30年値 3,250人

【設定期由】市民体育祭・スポーツフェスティバル(※2)の参加者数は、不特定多数の市民が集まる機会であり、市民がスポーツに親しむことで増加が望まれることから「市民体育祭・スポーツフェスティバルの参加者数」を指標としました。

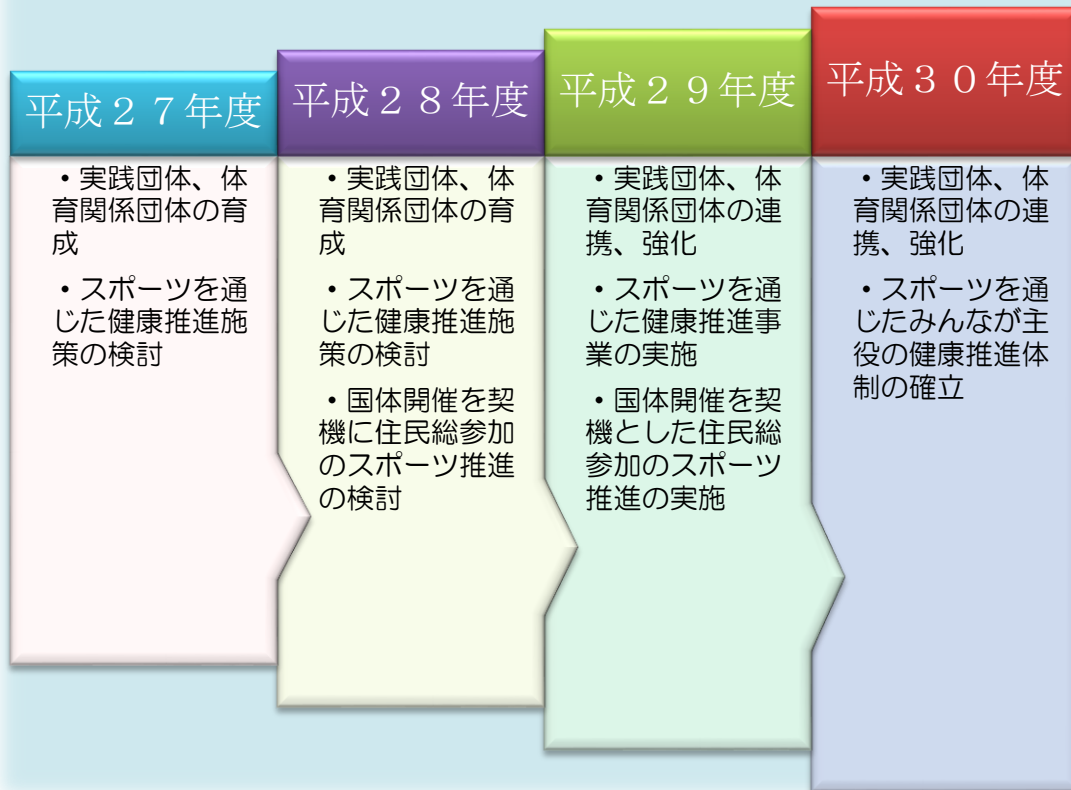
#### ②《参考》関係する「幸福実感象徴指標」

##### 多くの人とふれあいの機会があり、人間関係が良好であると感じている人の割合

【基準値】平成26年把握値 43.3%→【目標値】平成30年値 50.0%

【設定期由】スポーツや運動を通して、多くの人とのふれあいや人間関係が深まることは自己実現につながることから「多くの人とふれあいの機会があり、人間関係が良好であると感じている人の割合」を指標としました。

(3) 施策展開スケジュール



(4) 所管実施計画

所管実施計画なし

## 5-5-2 競技スポーツの振興・推進

基本構想に掲げる、最適化条件の該当項目

- ・スポーツに親しむ機会がある
- ・同じ目的を持った人との交流がある
- ・人々が集まり活動できる場所がある

### （1）施策の内容

競技スポーツの推進のためには、市体育協会を始め関係団体と連携しながら競技選手の強化や組織体制の強化、スポーツ指導体制の養成・確保が求められております。

競技スポーツの充実のため、市体育協会を始めとする関係団体と連携し官民一体となった組織体制の整備と選手育成のための指導者育成と確保を行ってまいります。

### （2）施策の目標

#### ①暮らしやすさ指標

##### 種目別協会の登録者数及び会員数

【基準値】平成26年把握値 2,344人→【目標値】平成30年値 2,450人

【設定理由】競技スポーツの充実のためには、各種目別協会の登録者や会員が増加することが必要であることから「種目別協会の登録者数及び会員数」を指標としました。

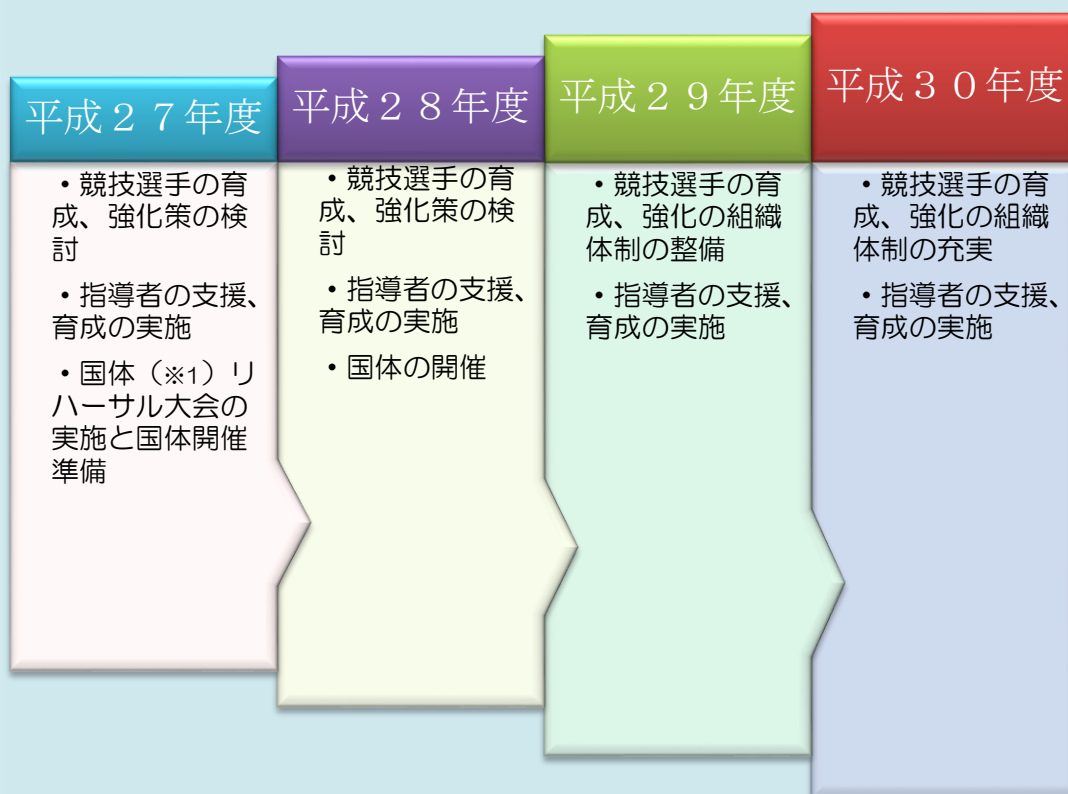
#### ②《参考》関係する「幸福実感象徴指標」

##### 芸術文化及びスポーツに関する市特別表彰の件数（累計）

【基準値】平成26年把握値 25件→【目標値】平成30年値 37件

【設定理由】競技スポーツにおいては、全国大会出場を目標にして選手強化を図ることが必要であることから「芸術文化及びスポーツに関する市特別表彰の件数」を指標としました。

(3) 施策展開スケジュール



(4) 所管実施計画

所管実施計画なし

## 5-5-3 施設の利用促進

基本構想に掲げる、最適化条件の該当項目

- ・スポーツに親しむ機会がある
- ・同じ目的を持った人との交流がある
- ・人々が集まり活動できる場所がある

### （1）施策の内容

運動やスポーツ推進の環境づくりのため、体育施設の計画的な修繕を図るとともに、国体に向けた陸上競技場や周辺施設の改修整備が必要です。

経年劣化した既存体育施設の計画的な修繕と設備の更新を行い、有効的な体育施設の活用と学校体育施設開放事業の充実に努めます。また、平成28年国民体育大会女子サッカー競技の開催に向け、総合公園陸上競技場とその周辺施設の改修と整備を行ってまいります。

### （2）施策の目標

#### ①暮らしやすさ指標

**人々が集まり活動できる「場」があると感じている人の割合**

【基準値】平成26年把握値 43.0%→【目標値】平成30年値 46.0%

【設定理由】運動・スポーツ推進の環境づくりのためには、体育施設の充実に図り、人々が集まり活動できる場があると感じている割合が向上することが必要なことから「人々が集まり活動できる「場」があると感じている人の割合」を指標としました。

#### ②《参考》関係する「幸福実感象徴指標」

**多くの人とふれあいの機会があり、人間関係が良好であると  
感じている人の割合**

【基準値】平成26年把握値 43.3%→【目標値】平成30年値 50.0%

【設定理由】スポーツや運動を通して、多くの人とのふれあいや人間関係が深まることは自己実現につながることから「多くの人とふれあいの機会があり、人間関係が良好であると  
感じている人の割合」を指標としました。

(3) 施策展開スケジュール



(4) 所管実施計画

所管実施計画なし

